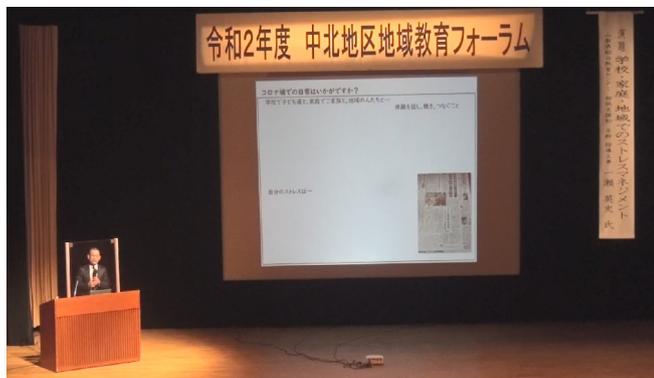


中北の地域社会 (COMmunity)の心の交流 (COMmunication)をめざします

## 地域の教育力の充実を

中北地区地域教育フォーラム

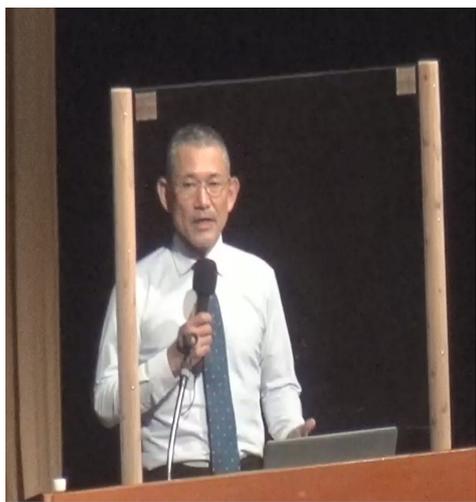
中北地区地域教育推進連絡協議会は、地域全体の教育力の充実を図り、子供達の健全な育成を推進することを目的に、学校、家庭、地域社会の連携を促進するさまざまな活動を行っています。その一環として、中北地区地域教育フォーラムが、10月22日(木)に甲斐市双葉ふれあい文化館で行われました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、山梨県が掲げる感染拡大防止対策や会場となった甲斐市双葉ふれあい文化館の感染拡大予防ガイドラインに則って万全の対策を行い、参加人数を限定して行われた講演会には、地方教育行政や学校関係者、社会教育担当者など100余名が参加し、講師である山梨県総合教育センター相談支援部 主幹・指導主事 一瀬 英史先生の講演『学校・家庭・地域でのストレスマネジメント～ストレスを理解し、ストレスをコーピングするためのおはなし～』に熱心に耳を傾けました。以下に講演内容の一部をご紹介します。



### コロナ禍における児童・生徒の心のケア

現在のような危機状態の時に大事なことは、普段と違う日々について、その体験を話し、聞きあい、そしてその話をつなぐということ。一方で、大人同様にいろいろなことを感じ取り、緊張を抱え込んで日々を過ごしている子供達にとって、自分が体験していることを言葉で表現するということは難しい。そのため「眠れているか」「食事がとれているか」「楽しく遊んでいるか」といった観点から子供達の様子を把握しながら、子供から発せられる様々な表現を受け止めて欲しい。また、そうしたまなざしを学校、家庭、地域で持つことが大切。

### ストレスケアの基本～ストレスマネジメントとは～



自分の中にストレスを抱えてしまっていると、ストレスを扱えない。そこで何がストレスになっているのか、どんな反応が出ているのか、それに対しどのように対処しているのかなど、自分の内側にあることを外に取り出し、距離を取って眺めてみることで、ストレスをマネジメントできるようになる。また何がストレスになるかは、個人の受け止め方、すなわち「認知的評価」による。そこで受け止め方を変えていくことが必要になるが、ただ受け止め方を変えるということではなく、自分がストレスをどんな風に受け止めて、それをどう感じているかということを実感し、自分で扱うことができるようにする。そして何よりストレスマネジメントの基本は、ストレスを感じることは悪いことではないと受け止めること。ストレスやそれを感じている自分を否定せず、普段とちょっと違う大変な出来事に対する心と体のサインなのだ、と受け止めることが大事である。

一瀬先生のお話は、ストレス社会に生きる私たちにとって多くの示唆に富むものであり、参加された皆さんからも「わかりやすく、興味深かった」「職務に活かし、周囲のサポートにつなげていきたい」といった感想が多く寄せられました。また学校・所属等でストレスマネジメントについての理解を深めていただけるよう、一瀬先生のご厚意で当日の講演の様子を動画で公開することができることになりました。中北教育事務所のホームページあるいは以下のQRコードからアクセスしてください(12月28日まで)。

中北.com no.4 コンテンツ

- p1 中北地区地域教育フォーラム
- p2 山梨県教育庁生涯学習課
- p3 しらゆり幼稚園、芦安中学校
- p4 韮崎西中学校、山梨県立男女共同参画推進センター



すべての子供・若者が健やかに成長し、その持てる能力を発揮し活躍できるような環境づくりは、社会全体が総がかりで取り組むべき課題であり、山梨県においても、令和2年度に新たな「やまなし子供・若者育成指針」が策定され、子供や若者の健全な育成を図るさまざまな事業が行われています。今回はその中から、山梨県教育庁生涯学習課青少年保護育成担当が取り組む2つの事業をご紹介します。

## 自分をコントロールできる気持ちの強い人に！ 甲斐市立敷島小学校

甲斐市立敷島小学校では、5年生の児童と保護者を対象に、「親子で考えよう！スマホやゲーム機の使い方」をテーマにネットトラブル教室を行いました。講師は、山梨県教育庁生涯学習課の青少年保護育成担当の職員でした。教室開始に先立ち、5年担任の先生からは、「家の人と同じ話を聞いて、しっかりした使い方について家で話をしてほしいです。」と、児童と保護者に向けて親子で参加するネットトラブル教室開催のねらいについてのお話がありました。ネットトラブル教室は、ウォーミングアップとして3つのクイズから始まりました。児童は興味津々です。体育館のステージのスクリーンに映される画像資料は、グラフや図、イラストなどが使っており、児童にも保護者にも見やすくわかりやすく工夫されていました。ゲーム依存に関する動画を見ているとき、「それはまずいよ。」と感じたのか、児童が思わず声を上げてしまう場面もありました。講師の職員が強調していたのは、自分をしっかりコントロールすることの大切さでした。そして保護者へは「依存は生きていくのに必要な杖のようなもの。それだけを取り除いてもだめ。それに代わるものが必要。生活の中でできることや得意なことを見つけてあげましょう。」と訴えていました。また、家庭でのルール作りのヒント、「あんしん設定」・「あんしんフィルター」等安全・安心な利用のための方法や、ゲームトラブルに巻き込まれたときの具体的な相談先についての話もありました。ネットトラブルの怖さと対応の仕方を学習した上で、「賢く安全」なデジタル機器の活用について親子で一緒に考えるきっかけづくりとなるネットトラブル教室でした。



クイズや動画の活用で、親しみやすく充実した内容！

## 青少年を取り巻く環境の整備

やまなし青少年社会環境健全化推進会議・ 山梨県青少年総合対策本部

一方、青少年に関わりの深い業界団体と行政機関が連携し、青少年が心身ともに健やかに成長する環境作りを目的とした第1回青少年社会環境健全化推進キャンペーンが韮崎市で行われました。このキャンペーンは、やまなし青少年社会環境健全化推進会議および山梨県青少年総合対策本部が主唱し、地域において青少年が利用することが多い店舗等に対して、青少年保護育成条例の徹底や青少年健全育成に向けた自主規制の確認と協力要請などの啓発活動を行うものです。キャンペーンに参加した各業界団体と行政機関の代表者は、韮崎市内の書店、コンビニエンスストア、ビデオレンタル店などの図書関係業種、カラオケ店やパチンコ店等の娯楽施設、たばこ・酒類取り扱い店、薬局・薬店などの薬品取り扱い業種、携帯・スマホの販売店等さまざまな業種の店舗を巡回し、事業主や従業員等に対して社会環境健全化推進会議のリーフレットや自主規制協力ステッカー等を手渡ししながら、深夜外出をしている青少年への帰宅指導や、20歳未満への酒類・たばこ類の販売禁止の徹底等への協力を呼びかけました。訪問先の店舗事業主等の話からは、日頃から条例の遵守や自主規制の継続的な取り組みを行っている様子が見え、青少年の健全育成に地域社会全体で取り組む必要があること、また青少年を取り巻く社会環境の整備が欠かせないという意識が、地域全体で共有されていることが伝わるキャンペーンとなりました。



「おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも元気で過ごしてください。」園児の元気な声に、介護老人保健施設 甲府相川ケアセンター利用者みなさんも笑顔でうなずきます。9月18日（金）、甲府市大手のしらゆり幼稚園の園児が敬老のお祝いに甲府相川ケアセンターを訪れ、手作りの壁飾りを贈りました。同園が甲府相川ケアセンターと交流を始めたのは、20年前、同センターが設立された時からだと言います。それ以来、お遊戯を披露するなど、園児は同センター利用者みなさんとともに毎年敬老の日を祝ってきました。しかし今年新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、例年のような交流会を持つことはできなくなり、しらゆり幼稚園の子供たちが2週間かけて作成した壁飾りを、園児の代表者2名が甲府相川ケアセンターに届けました。少子化が進む現代では、祖父母と親子世代が同居する三世帯世帯は減少の一途をたどり、また都市化が進み地域とのつながりも希薄になる



る中で、これまで家庭や地域で見られたような子供達と高齢者の交流が減少しています。しかし子供達は、高齢者を含むさまざまな人と触れ合いながら豊かな人間性や社会性を育み、人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを感じることができるようになると言われています。甲府相川ケアセンターの利用者みなさんと交流した園児の明るい表情から、世代間の交流が子供達に高齢者への理解や思いやりの心を育て、周囲の人に喜んでもらえることが自信につながる経験となっていることがうかがえました。

## 地域の方々に思いを届ける

## 南アルプス市立芦安中学校

南アルプス市立芦安中学校では、日頃から地域とのつながりが非常に強く、地域と学校が一体となって歩んでいます。学園祭には、保護者だけでなく地域のお年寄りや日頃お世話になっている関係機関の方々を招待して、日頃の感謝を直接伝えることを通して、つながりを深めてきました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で、いつもの年と同じような形での学園祭はできません。芦安中学校では、感染症対策をしたうえで、できるものは実施していくという方針のもと、学園祭を創り上げてきました。新しいことに挑戦し、工夫することで、考え方・生き方・ものの見方を深める一つのきっかけにしてほしいという先生方の思いに応え、生徒はこれまでの感謝を地域の方々に届けるにはどうしたらよいか、何ができるかを検討し、挑戦し始めました。その一つが、「オンライン合唱」です。生徒各自が別室で自分のパートを動画に収録し、コンピュータ上で『ひとつの合唱』に仕上げるというものです。生徒は、学校内の様々な教室に別れ、ソーシャルディスタンスをとったうえで合唱の練習に取り組みました。撮影の順番になったことを友達から伝えられ、撮影する部屋へ移動します。そこでは、撮影機材を扱う生徒が待機しています。撮影担当の生徒は、準備を整えると、その場から離れ、歌う生徒からはしっかり距離を保っていました。生徒の、やらされているのではない自分から練習する姿、手慣れた操作で撮影機材を扱う姿、カメラに向かって一人で歌う姿は、この動画を地域の方々に届ける意義や目的までをしっかりと理解していると痛感させられました。動画を一度撮ればもう充分となるだろうという先生の予測に反して、何度も撮り直す生徒がいます。「目的、ねらいがはっきりしていれば、生徒自ら進んで動き出すことを、生徒の姿から学ばせてもらっています。」という先生方の言葉が印象的でした。この「オンライン合唱」と学園祭の一部が収録されたDVDは、生徒の思いとともに地域の方々に届けられます。このようにして、芦安中の地域とのつながりは、コロナ禍にあっても脈々と続いていきます。



取り組み時間には、一人で練習します。



撮影担当も生徒でした。



心をこめて、表情豊かに歌っていました。



韮崎市立韮崎西中学校では、五味醤油株式会社の五味洋子さんをお呼びして、1年生の総合的な学習の時間で、「身近な地域の食文化」をテーマに食育講話を行いました。五味さんは、甲府市に店を構える「五味醤油」の6代目のお兄さんとともに「発酵兄妹」というユニットを組み、様々なメディアを通じて、発酵や味噌の魅力を発信している方です。「手前みそのうた」と言えばご存じの方も多いと思いますが、この歌をプロデュースしたのも「発酵兄妹」です。総合的な学習の時間の1年生のテーマは、「ふるさとの文化を知ろう」です。そのための大切な体験が新型コロナウイルスの影響のため大きく制限され中止になるものが多い中で、秋澤校長先生の「できることを考えよう」というかけ声のもと、栄養教諭の守屋先生が食育講話をコーディネートしました。五味さんと韮崎西中学校のつながりは「味噌造り」という点で昨年度からありました。「発酵ってなあに？ 腐った豆は食べられない 発酵した豆はおいしい」そんな中学生の好奇心をくすぐる問いかけから、発酵と腐敗の違いについて、五味さんは生徒に語りかけていました。発酵と腐敗の違いは、微生物の働きに関係があり、人間の都合で決まるそうです。続いて、話は味噌の種類へ。そこから、合わせ味噌である甲州味噌の話へと進んでいきました。米が十分に収穫できない山梨では裏作として麦を作り、麦と米の合わせ味噌ができ、ほうとうによく合う味噌であるなど、郷土の特徴が毎日の食生活につながっていきます。五味さんは、事前学習をした生徒からの「高級味噌という味噌を見かけますが何が違うのですか」や「にんじんが好きになる味噌料理はありますか」等のたくさん質問にも丁寧に答えてくれました。五味さんは、「自分で作ったものはおいしいという手前味噌の文化を残したい」「味噌を入りに食への興味を深めてもらいたい」「食の未来が明るいものになるように」という思いを生徒に伝えていました。強く熱い志をもった五味さんから、生徒は多くの刺激を受けていました。



講演では「手前みそのうた」に合わせたダンスの披露も！

# 男女共同参画社会の実現に向けて



すべての人がその性別に関わりなく、自由な意思で生き方を選択したり、その個性や能力を十分に発揮したりすることができる男女共同参画社会。その実現は、社会全体の多様性と活力を高める観点から、社会全体で取り組む重要な課題であると言われています。そのため学校教育や社会教育において、相互理解や人権尊重、男女平等を推進する教育の充実を図ることが求められています。こうした社会状況を背景に、山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ総合において、教職員を対象とした研修会『学校現場における男女共同参画教育』が山梨県総合教育センター、山梨県男女共同参画推進センターの共催で行われました。研修会では初めに山梨大学の秋山麻実教授から、国連教育科学文化機関（UNESCO）が中心となって多くの研究者らによって作成され、5歳から18歳までのそれぞれの年齢段階に合わせた指導

や課題をまとめた『国際セクシュアリティ教育ガイドンス』（2018年）の内容と日本の教育課題に関連した講演が行われました。またNPO法人 エンパワメントアフロッキー（代表 望月理子氏）からは、高校生や大学生などの若い世代の間で起きている交際相手からの暴力（デートDV）の予防講座が、ワークショップ形式で行われるとともに、学校現場で無意識のうちに行われる男女の役割への固定的な価値観への気づき、またそれに基づいて教育実践をどう見直すかを考えるための講義が行われました。参加された先生方は熱心に講演に耳を傾け、ワークショップでは積極的に意見を交換されており、そうした先生方の様子から、学校教育全体を通じて、男女が共同して社会参画することの重要性を児童生徒に伝えたいという熱意が感じられる研修会となりました。

